



主張 市民の意識変化で税金の無駄遣い追及を  
(無名新人滋賀県知事当選は傍証) 代表幹事 江口武正 2

税金のムダ遣い

みんなで知ってみんなで追及しよう 篠原義仁 3

かわさきファズの経営は

新規投資が出来るほど順調なのか 川口洋一 4

消防署兼ホテル 施工業者決まる(毎日新聞2006年6月29日) 5

ごみ焼却炉談合判決 横浜市、控訴せず(毎日新聞2006年7月6日) 10

#### 十字路

お騒がせ入札 清水芳治 5

化けて出る

時計台で首吊り自殺した課長よ 望月文雄 6

東京大空襲・戦災資料センターを見学して 佐々木玲吉 7

トルコ紀行 その4 エフェス(5日目) 望月文雄 8

会計報告 11

#### 編集後記

**中小企業婦人会館  
税金の使い方を考える  
市民集会(10月21日)に  
結集しよう**

# 主張 市民の意識変化で 税金の無駄遣い追及を (無名新人滋賀県知事当選は傍証)

代表幹事 江口 武正

7月2日の滋賀県知事選挙結果は仰天であり、大変興味深いものであった。

自民党、公明党、民主党の推薦を受けた現職知事国松氏に挑戦したのは社民単独支持(非推薦)の京都精華大教授嘉田由紀子氏(56歳)である。

常識的には嘉田氏の勝利など考えられない状況にかかわらず、結果は無名新人の嘉田氏の得票が217,842票、国松氏は185,344票であり、嘉田氏が当選し、国松氏の完敗となった。

選挙の最大の争点は、滋賀県栗東市で建設が開始された東海道新幹線新駅「南びわこ駅」(仮称)の建設続行か凍結かであった。

嘉田氏は財政難の折、約240億円の新駅建設費用は税金の無駄遣いであり、「もったいない」を合言葉に選挙戦を戦った。

当選後の記者会見で「凍結させていただくのが政治生命」「本年度の建設負担金の予算は執行停止にする」と明言した。

我々「かわさき市民オンブズマン」も税金の無駄遣い追及を旗印に掲げ、川崎市の税金の無駄遣いの実態を明らかにしてきた。

例えば、水道メーターの談合問題、南伊豆保養所土地問題・東和町保養所開設問題をはじめとする土地開発公社の数々の不良土地購入問題、かわさき港コンテナターミナル(KCT)の破産にいたる問題、かわさきファズ問題等の川崎市の税金の無駄遣いを徹底して解明、追及してきている。

しかしながら、一般市民にどれだけの共感を得ているであろうか。

我々の活動を知り、オンブズマンの活動を理解している市民が多くないことは、我々の年次総会に出席する人数からも逆算できるところである。

共感を得られない原因は我々の広報宣伝の未熟さもあるが、市民の意識が税金無駄遣いに対して大いに不満は感じて、行動に結び付ける程には高くはなかったのではないかと思える。

しかし、最近の生活の厳しさは切実なものになってきている。配偶者特別控除の廃止・老人控除廃止による所得税の増額、県民税・市民税の増額、介護保険料増額、年金の不安等の庶民への財政負担は増加の一方である。流石に、厳しい状況に直面している市民が我々の税金を無駄遣いすることについて大きな不満を表明したのが今回の滋賀県知事選ではないかと考えられる。

わが会も10月21日に「税金の無駄遣い」を許すなど市民集会を他団体の協力を得て開催することを決定している。

時は熟してきている、ここで市民に川崎市の税金の無駄遣いの実態を訴え、更なる無駄遣いを許さないため、市民の共感を得て問題発生を責任を追及したい。

## 税金のムダ遣い

### みんなで知って みんなで追及しよう

篠原 義仁

① 5月14日、本年度のかわさき市民オンブズマン総会が開催されました。総会では、南伊豆や東和町の保養所用地、土地開発公社の保有・処分に係る「塩漬け土地」の実態が直近の情報公開資料に基づいて報告されました。

当日は総会ということもあって、定例の拡大幹事会の参加メンバー以外の会員も参加し、私たちとしてはニュース等で報告済みと思っていたのですが、「初めて知った」「いまさらながらだが、こんなにひどい実態だったのか」という声が発せられ、同時にその実態を広く市民に知らせ、市民共通の怒りを呼び起こす必要がある、そのための企画をオンブズマンの責任として行うべきである、との意見が強く打ち出されました。

この提起をうけて、5月16日の拡大幹事会でオンブズマンが事務局団体として実務を担うこととし、広く関係諸団体、個人に呼びかけ、その企画を具体化しようということになりました。

そして、今度、6月16日と7月19日の2回にわたって、それぞれ個人の資格で10数名が参加し打合せを行いました。その議論の到達点をご紹介しますこととします。

② 川崎市土地開発公社に川崎市が利用目的があいまいなまま、先行取得させた土地が、多額の金利負担を背負いながら長期にわたって未利用地、遊休地として放置され、いわゆる「塩漬け土地」となっています。近時、オンブズマンの指摘で、「損切り」売却、赤字処分をしている土地も出て、若干、「塩漬け

土地は」減少しているものの、今なお、その土地はぼう大で、仮に——仮定というよりもここ数年のうちには現実化すると予測されていますが——土地公社が破産した場合には、債務保証をしている川崎市にその責任がのしかかり、川崎市財政を直撃することが必至となっています。

「塩漬け土地」のうち、南伊豆保養所用地は、遊休地状況を解消させるため、6億超円で購入したのに昨年12月、何と5750万円の安値で売却されました。東和町保養所用地は、購入価格や用地造成、温泉掘削などで8億余円もかけたのに、川崎市では有効活用できず、今年3月、市議会の同意を得て東和町（今春、花巻市に吸収合併）に無償譲渡されました。

この外、破綻したKCT（かわさき港コンテナターミナル）への多額な支援、出資に係る損失、完成不能の公害道路・高速川崎縦貫道の事業続行から生じる損失、その上、赤字必至、利用効率の悪い川崎縦貫地下鉄構想等々、川崎の「税金のムダ遣い」政策は目に余るものがあります。

しかし、これらの失政は、オンブズマンが監査請求理由の住民訴訟で勝利し、具体的に責任の所在を明らかにしたにもかかわらず、何ら制度的な改善がされることなく推移し、失政にかかわった市長以下職員の責任追及、損失の補填措置（損害賠償請求）も何ら行われず、市民の貴重な財産である税金が民主的なコントロールがないまま費消されつづけています。

他方、オンブズマンが勝訴した上下水道談合、水道メーター談合に象徴される談合問題も一部入札制度の改善はあったものの、抜本的改善には至らず、ひきつづき入札に係る落札率は高値を示し、その結果、適正価格との差額が市財政の損失として発生しつづけています。今こそ、オンブズマン提言に添った真の制度改革が求められています。

③ こうした実態が存在するにもかかわらず

ず、川崎市は市民に十分な情報提供を行わず、事件発生に係る説明責任も果たしていません。

私たちは、「税金のムダ遣い」を恒常的に生み出している川崎市行政のあり方を根本に立ち返って検証する必要があることを痛感しています。

以上の認識にたつて各界各層、各分野から呼びかけ人を出してゆき、呼びかけ人方式で仮称「こんな税金のムダ遣いは許せない——改革・改善をめざす市民のつどい」（次回打合せでより市民的合意をえられやすい名称に変更して確定する予定）を企画しました。オンブズマンの会員はもちろん、多くの人を誘い合つて、300人定員の会場を埋めつくしてこのつどいを成功させたいと祈念しています。

## 市民のつどい

と き 2006年10月21日（土）  
午後1時30分～4時  
ところ 中小企業・婦人会館  
5階大会議室  
最寄り駅 武蔵小杉  
資料代 500円

## 次回打ち合わせ

と き 2006年8月22日（火）  
午後6時30分  
ところ てくのかわさき  
第5研修室  
最寄り駅 溝の口

フリーに討議しています。  
どなたでも参加可能です。  
ご参集下さい。

## かわさきファズの経営は 新規投資が出来るほど 順調なのか

川口 洋一

川崎市扇島で物流センターを運営する「かわさきファズ株式会社」が35億円の費用をかけて、低温物流棟の建設を計画していることを、7月14日に日本経済新聞などが報じています。

この会社は、川崎市が資本金の31.9%（7億円）を出資する市の第3セクターです。会報42号（2004年8月）に会員の佐々木さんが、この会社の経営状態を調べた結果を報告しています。川崎市は固定資産税を減免し、そのうえ会社に貸している土地（11ヘクタール＝11万平方メートル）の使用料も免除している。これらの減免による財政支援は1億9千万円にもなっています。

さらに借地権利金185億円に対する利息も市は放棄しています。利率を2%として計算すると、3億7千万円です。このことは2002年2月の川崎市議会の市民委員会でも問題になりました（会報27号11ページ、朝日新聞1月24日の記事）。その記事の中で、「ファズを設立したときには、税金を投入しないという話だった。今になって、固定資産税の減免、地代の免除に加え、権利金の利息請求権を放棄するというのは、見通しが甘かったという程度の話ではない」と怒っている議員の話も紹介されています。

結局、川崎市は「かわさきファズ株式会社」に毎年6億円以上の財政支援をしていることとなります。

会社の損益計算書から当期利益を見ると、第10期（2003年）が8200万円、第11期（2004年）が1億4800万円、第12期（2005

年)が2億3200万円と見せかけの利益が計上されています。新聞記事にはこの数字が取り上げられています。けれども市の援助が無ければ、毎年4億円以上の赤字です。しかも累積赤字が38億円もあるため銀行から借り換え融資をことわれ、市が37億円融資しなければならぬ状況でした(2003年)。現在でも累積赤字は34億円もあります(2005年)。

新規投資の計画では、市から新たに6300平方メートルの土地を借りることにしています。さてこの土地の使用料はどうなるのでしょうか？そして事業費35億円の大部分は借入金で賄うとのことですが、累積赤字が34億円もあり、財政支援を毎年6億円受けながら1億円程度の利益しか上がらない会社に融資する銀行があるのでしょうか？ひょっとして市からの全額融資を当てにして計画を作っているのかと思うと、とても心配です。

佐々木さんの報告は、ホームページの図書室に会報のバックナンバーがありますので、ご一読ください。

**消防署兼ホテル  
施工業者決まる**  
中 原

山組でつくる東急・大山共同企業体が落札した。落札率は99.9%。発注者の市まちづくり公社は、32億3020万円の予定価格を事前に公表していた。4共同企業体が入札に参加したが、3企業体は「辞退」と記入して応札した。公社は

「予定価格が低すぎると判断し、辞退したのではないか」としている。市まちづくり局によると、21階建てのビルを建設し、1、4階が消防署、5階以上にビジネスホテル「ロイネットホテル」が入る計画だ。7月中旬に着工し、08年3月に完成する予定。



## お騒がせ入札

清水 芳治

イメージネーションに乏しいせいか、消防署とホテルの複合建築物がどんな効果を発揮するのか、頭の中に絵ができていなかったのだが、忘れていた建物の話が突然蘇った。建設の入札を巡ってである。

新聞報道によれば、川崎市まちづくり公社がJVに入札を呼びかけ、2006年3月27日の入札予定では応札JVは6共同企業体であったそうである。

ところが、そのうちの3JVが防衛庁施設にかかる談合事件で入札停止処分を受け、残り3JVが入札を辞退して、入札が不能となってしまったというのだ。

そこで公社は、共同企業体の組み方を、3企業から2企業に、予定価格を3000万円上乘せし、再度入札を設定した。

今度は、4JVが入札を申し入れたのだが、またしても3JVが入札を辞退。東急・大山共同企業体が落札率99.9%で落札した。

スケッチすれば以上が落札に至る経過である。

この事態を東京新聞6月29日付けは「前回に続く予想外の出来事に、同公社の担当者は『初めての経験で驚いた。予定価格が企業にとってまだ厳しかったのかもしれない』と戸惑っていた。」と報じ、同じく朝日新聞は「公社は『予定価格が低すぎると判断し、辞退したのではないか』としている。」と報じ、公社の見解を伝えている。

この公社の見解と全く別の見方も出来る。

オンブズマンはかねてからJVを入札の条件にすることに疑問を呈してきた。談合するための環境を整えるからだ。しかも、そうした声が巷に存在するにもかかわらず最初は2社ではなく3社を共同企業体の条件とした。どうぞ、お好きなようにと言わんばかりである。ところが、本命が排除された。じゃあ辞退しよう。

あまりにも談合が多すぎるための想像で、妄想かも知れない。

私が一番引っかかったのは公社の「予定価格が企業にとってまだ厳しかったのかもしれない」「予定価格が低すぎると判断し、辞退したのではないか」との見解である。

公社の見解が、JVの振る舞いに幻惑されることなく、客観性を担保するためには積算過程と資材の市況を明らかにする必要がある。

早速、まちづくり公社に①積算に用いたマニュアル、積算者、②資材の市況調査の有無の情報公開を求めた。公社は快く調査に協力してくれた。

①で明らかとなった中でここに報告すべきは、積算したのは(株)梓設計という民間企業の「積算担当」者であり、②は実施していないということである。

将来にわたってであるが、ホテルが稼働率100%で繁盛している時、偶々大災害が突発したとして、ホテルは災害対策拠点の任に堪えられるのか、自分で積算も市場調査もせず、予定価格が低すぎるとどうしたらいいのか、この疑問の解決に悩まなければならない。

なお、川崎市の2005年度における予定価格1億円以上の公共事業の落札率の分布は他の地方自治体の落札率分布と異なり、特殊川崎的とも称すべき奇妙な図形を画いていて興味深い。10月21日の中小企業・婦人会館での市民集会にはこのことも報告できるであろう。

## 化けて出る 時計台で 首吊り自殺した課長よ

望月 文雄

今年の6月1日の朝日新聞、川崎のページに大きな見出しで「ごみ収集週3回に・・・来年4月から」という記事がありました。経費約6億4千万円、人員58人、車輛56台の削減効果があるとされた、という削減効果を表した記事です。

その記事の4、5段下に「市環境局の課長庁舎内で自殺か」という小さな(14号ポイント活字位)見出しの記事がありました。

記事の前半には「31日午後2時半ごろ、川崎市川崎区の市役所本庁舎の時計台の中で、男性が首をつっているのを点検中の委託業者が見つけた。すでに死亡しており、市環境局の課長であると確認された。川崎署は自殺と見ている。」

翌日ごみを収集にきた環境局の職員に事情を聴いてみたが、1人は事件そのものを知らず、もう1人は名前は聞いていないという。

この月の拡大幹事会でも、この事件は話題にならなかった。自分が勤務する市役所の時計台の中を死に場所と決めた課長の市に対する恨みは深いのでしょうか。30年前、私の同期生が職長職試験に2度失敗して、緑ヶ丘霊園の雑木林を死に場所を選び、縊死しました。私なら勤務先を選んだでしょうに。

この環境局課長が市庁舎の時計台を死に場所と決めたことは、行財政改革の責務の負担に耐えかねたものでしょう。自分を死に追いつめたその業務の象徴の場を死に場所を選んだに違いありません。縊死した課長よ、死に追いつめた組織の長に化けて出なさいよ、毎晩、毎晩。

## 東京大空襲・ 戦災資料センターを 見学して

佐々木玲吉

今年も8月15日がやってきます。それは終戦の日といわれています。しかし「終戦」それは退却を転進と言い替えたと同じくまやかしの言葉です。その日は戦いに敗れ、ポツダム宣言を受諾したことを全国民に知らせた日なのです。

当日を想起してみましょう。朝から真夏の太陽が照りつける晴天の日でした。しかし連日続いた空襲はありませんでした。前日までとは打って変わった静かな日でした。12時より玉音放送があるといわれて聞いたのですが、正直に言って何をしゃべっているのかわからなかった。これは日本語なのかと思ったほどでした。恐らく殆どの人がそのように感じたものでしょう。その後3時頃よりあちらこちらで人々が三々五々集まり、日本は負けたのだという会話が聞こえてきました。

以上が1945年疎開先、宮城県の片田舎で迎えた私の8月15日ですが、それに先立つ半年間は軍部・大本營のヒステリックな戦争宣伝のもと日本全土は焦土と化し全国民は言語に絶する苦しみの中に陥れられていたのです。その発端となったのが1945年3月10日の東京大空襲です。その後大阪、名古屋、横浜と続き川崎も焼け野原となり、8月には広島・長崎の原爆投下となるのです。

ところで今年7月15日川崎区でも「九条の会」が発足し、作家・早乙女勝元さんが記念講演をされましたが、年金者組合の方が早乙女さんが館長をされる「東京大空襲・戦災資料センター」を事前に見学しようと提起されましたので6月22日私も同行致しました。

センターに到着する前に何万という身元も

氏名も判別できない炭状になった遺体が仮埋葬された、江東寺、猿江公園、夢違地藏、八百霊地藏尊、重願寺等を飯塚徹二郎さんの名案内のもと参拝し、最後にセンターに到着しました。

センターにはB29から投下された焼夷弾、融解した瓦に包まれた瀬戸物、数は少ないが当時の実際の写真、当時を思い出して画かれた絵画等が展示されていました。最後にB29、300機が空襲に至るまでのビデオも見学しました。

ところで、広島原爆につぐ大災害をもたらされたこの東京大空襲を後の人々に語り継ぐ意味での保存センター建設に、政府、東京都は建設凍結（中止と同じこと）と連絡し、ダンボール何10個分の資料を1999年に突き返して来たそうです。

それならばということで早乙女さんら有志は集い、私財を投入してでも作ろうではないかということで2002年3月9日「戦災資料センター」は完成されたのです。そのため広島原爆資料館、長崎平和公園、沖縄摩文仁の平和公園等とは比較にならないほど小さく簡素なものです。



さらに不可解なことはこの東京大空襲を立案し指揮をとったカーチス・ルメイ米空軍参謀総長に、航空自衛隊の育成に協力したとの理由で日本政府は勲一等旭日大綬章を1964年12月送っていることです。何たることだ！

わが国の為政者たちはアメリカの顔色を伺い、罹災者100万人、推定10万人以上と言われる死者（主に老人、婦女子等、非戦闘員）を出したといわれるこの東京大空襲を風化させたいのでしょうか。それならばわれわれは市民として、この歴史上の事実を大事件として、後世に残し、「二度と再び戦争はしてはならない」として多くの人々に語りついで行こうではありませんか。

横浜、川崎も空襲にあい、焼け野原になったのですが、東京大空襲の物凄さを実感する意味で多くの方々が戦災資料センターを見学に行かれることを望むものです。

尚、当センターは只今増築中であり、資金的には目標に達していないそうです。カンパも宜しく願いいたします。

## トルコ紀行

### その4 エフェス（エペソ） （5日目）

#### 望月 文雄

クシャダシのオヌラホテルを出発したのは朝7時半。この時間が当たり前になったようだ。エフェス（エフェソスとも言う、新約聖書ではエペソ）までは近い。それでもバスで約1時間。丘陵地帯をくねりながらバスが行く。右前方の丘を目指して、「あの丘のうえには聖母マリア教会（エペソ総会議・紀元431年開催場所）があります。反対側の丘、今バスが走っている道続きの丘ですが、その



神殿の柱頭を飾った女神像

上には聖ヨハネ教会があります」とガイド・サイトさんの説明。「残念ながら今日の観光予定にはありません。バスを降りたら私の後についてきてください。大型バスが込み合いあぶないですから」と注意。

エフェスの遺跡は丘を下って、小さな谷あい存在している。丘を見上げるとあの聖母マリア教会のある丘だ。谷あいには舗装された道があり、道の左右に遺跡がある。私たちがバス通りから入ってきた所は上門といわれるところで、左側は上アゴラ（市場）といい、大きなバジリカ（公共公会堂）があった跡で、突き当たりにトラヤヌス神殿がある。右側には浴場跡、音楽堂跡、市役所跡が並んでいる。ガイドは市役所跡で長い説明を始めた。

「紀元前2000年頃からの歴史を持つこの都市の特徴は市民が、実権を持つことで、あのアレキサンダー大王も市民の要求を受け入れ、アルテミス神殿の復旧を行う。有力市民は町の発展、維持のために経済的努力を惜しまず、市民はその功を称えて記念像を建立したのです。上水道だけでなく、下水道も完備していてこの側溝は下水道のものです」と。

大理石が敷き詰められた道をトラヤヌス神殿前まで下ると、神殿の道ばたに浮き彫りされた女神像の大理石が置いてある。誰かが、「この女神像は最初からここにあったのですか」と素朴な質問をする。即座に、「いいえ、神殿の柱の上にあったものです」という返事



に一同哄笑。仲間意識が生まれる。

街のメイン通りの名はクレテス・ストリート。入り口にはライオンの頭を付けたヘラクレス門。左側は工事中で目隠しの塀が高い。その先にオクタゴン（八角堂）と、ビザンティンの泉。右側にはトラヤヌスの泉、ハドリアヌス神殿、スコラスティキア浴場、公衆トイレと目まぐるしい配置。（公衆トイレは市民の交流の場で、座って用を足しながら語り合うというのが古代ローマの公衆トイレ。落ちた排泄物は溝を流れる水で流される水洗方式）。このトイレは遊郭の一部分にあったようだ。ローマ人の遊び好きはあのヴェスヴィオ火山の噴火で埋まったポンペイの街の遺跡でも名高い。

この道が右折した角、外側（海寄り）のケルスス（古典医学の権威者・医学論）図書館がある。大理石の建物は現代でも見えそうな感じ。アレキサンドリア、ペルガモンに次いで当時世界3位の蔵書を誇ったという。図書館の南は下のアゴラがあったという。この通りはマーブル・ストリートで、アルカデアン・ストリートに左折するところに大劇場がある。使徒パウロが幾度も演説した大きな野外劇場だ。私たちは北入口（下門）といわれる場所を出て、バスに乗った。

### ミレト（ミレトス）

「そこから出帆して、翌日キヨスの沖合いにいたり、次の日にサモスに寄り、その翌日ミレトに着いた」（使徒行伝20章15節）。このミレトでエルサレムへ集めた献金を持っていくパウロが、3年間一心に宣教したエフェスの人々に別れを告げたくて、エフェスに迎え人を送る。彼の別れの話は20章18節から35節までにルカが収録している。エフェスからミレトまでバスでは1時間足らず、その時代の陸路はどれぐらいかかったのだろうか。バスがミレトの大きな野外劇場が見渡せる広場に着くと、現地の人々が2、3人近づいてき

た。広場の先の道路を挟んで野外劇場がある。2万5000人収容というから巨大なもの。添乗員がチケットを買ってくるのを待って劇場へ向う。舞台に通じる外壁に造られているアーチ型の門をくぐると観覧席の中心に赤地に黄色の三日月と星を染め抜いたトルコの国旗が青空に、へんぼんとはためいているのが印象的。

説明は聞き流すだけで、大理石の客席の大きさに見とれた。太もものあたりまである高さ。観覧している人々の体格の良さが伺えようというもの。日本の野球場の席の高さの倍近くある感じ。最上段に登ると、通路がアーケードのようになっていて、視界が一方に限定される。そこを潜り抜けると、開放されて360度見渡せる。建築物は西南の方向に見えるイリアス・ベイ・ジャミイ（15世紀初頭の建築）だけ。ジャミイに目を凝らすと尖塔の先に巣作りをしたコウノトリが見える。しかし、パウロがエフェスから呼んだ人々に話をした場所は分からない。古代ギリシャの会議場なのか。

ガイドはライオン湾の方面に歩み始めた。一面に枯れた大きなアザミ。ズボンの裾に棘が絡む。薄紫の大きな種は棘だらけ。港のシンボルだった塔が頭の部分だけを残して埋没している。昔の繁栄はいずこ。まさに荒城。そこに残る遺跡の説明をうけると尚、人の世の繁栄に空しさを憶える。北アゴラ跡、古代ギリシャ式会議場跡、メネクシェ浴場跡、南アゴラ跡、イオニア式柱廊と一塊になった遺跡の場の一角が初期キリスト教教会堂が建設されていたというもの、それらしい遺跡は全く見あたらない。セルジュウク・オスマンと続くイスラム教世界への変化の過程で消去されてしまったのだろう。

イリアス・ベイ・ジャミイはセルジュウク時代のモスクで非常に価値の高い建造物なのだ。入口に立つ2本の大理石の柱は、基礎部分のひび割れが大きく、鉄製のバンドで補強

されているのが痛々しい。窓や入口の柱、鴨居には細やかな模様が刻み込まれていて、モスクの装飾への心配りが伺える。しかし、このジャミイをジャミイとして用いる住民は皆無といえるようだ。土産売り場や、チケット売り場の人々は別のモスクに集うらしい。セルジュウク朝のジャミイを出て、バスまでの10分は埃道で長い。3、4軒の土産物屋の呼び込みがうるさい。

バスに乗ると今度はメドゥーサの首で有名

なディディム (ディディマ) へ向った。アポロン神殿は車内からの観光。石という石が巨大な大理石。石の文化と痛感させる遺跡群。メドゥーサの首もその一つ。顔の中央部分がひび割れしているが、全体はそこなわれてはいない。困惑と怒りを込めたような容貌はどこか懐かしさを感じさせる。彫刻者は自分のワイフの怒り顔をモデルにしたのか、などと、礼儀に反した空想を誘う表情だ。

06.7.6  
ごみ焼却炉  
判決合談

# 横浜市、控訴せず

## 2社に賠償請求へ 同種訴訟で初

横浜市発注のごみ焼却炉建設工事をめぐる談合を認定し、市長が賠償請求しなかったのは違法とした6月21日の横浜地裁判決について、中田宏市長は5日、控訴しないと発表した。今後、地裁判決を基に損害を算出してJFEエンジニアリング(旧日本鋼管)と三菱重工に請求する。全国の同種訴訟で、行政側が控訴しないのは初めて。

中田市長は5日の定例会見で「違法とされたことに疑義がある。市は談合と確定できず、公正取引委員会の存在意義が分からなくなる」と話したが、「市民の利益を考慮して損害の回復を優先する。談合は許さないという姿勢を示す」と、控訴

しない理由を説明した。JFEエンジニアリングは、契約額の5割相当額の返還を命じられた判

決を不服として6月30日、東京高裁に控訴した。三菱重工も控訴する方針。市資源循環局によると、損害賠償の請求額は地裁判決での計30億1790万円を参考に算出した。

て確定するという。控訴する2社は同市の請求に応じないとみられるが、既に判決が出た今回の談合で、同市が単独で損害賠償請求訴訟を起こすことは法律上出来ないため、中田市長は「原告側に補助参加する形で請求する検討をしている」としている。

原告の「かながわ市民オンブズマン」の代理人、大川隆司弁護士は「市が企業から税金を取り戻す側に身を置くことは、本来原告が主張していたこととで歓迎すべきこと」と高く評価した。訴えによると、2社は94、95年に同市が発注した旭区と金沢区の焼却炉建設工事で他の3社と談合し、三菱重工が186億円、JFEエンジニアリングが400億円で落札した。公取委も6月28日、2社を含む5社が談合したと審決した。

【鈴木一生、野口由紀】

### 編集後記

○5月の第10回定例総会で参加者から今回報告された税金のムダ遣いが一般市民に殆ど知られていない、オンブズマン活動も全く浸透していない、何か工夫すべきだと注文された。そこで第1回拡大幹事会で市民集会を開催することを決定した。篠原代表幹事の一文を参照されたい。

○会員のみなさんは川崎市の広報紙を普段ご覧になるだろうか。『市政だより』7月1日号に人権オンブズパーソンや官製市民オンブズマン2005年度報告書の紹介と同じ誌面に情報公開制度の運営状況が紹介されている。公文書公開請求は昨年1年で1013件、この数字を多いと見るか、少ないと見るか。われわれは多分3%くらいの請求。するとどんな人が請求しているのか。

○また、その下の欄では「意見公募手続の制度化」で8月11日必着で市民の提案を募集中と告げている。幹事会では取り上げられて

いないが、記憶してよい記事である(提出先・問合せ総合企画局自治政策部 200-3708)。

○イラク派兵自衛隊員が全員死傷者なしで無事撤退した。憲法九条に守られた。その派遣費用は概算760億円である。ため息の出るような金額である。朝日新聞7月21日付けによれば「イラク社会への直接貢献としては」「業者に委託して行った学校や医療施設などの復旧・整備は月1億円程度で30億円弱」(!)「給水や医療支援は業者などに委託していないので、それほど高額ではない」(!!)イラクの人々に役立つならともかく、これって税金のムダ遣いじゃありませんか。

○情報に関わる(?)ものとして今年のJCJ大賞を記録しておこう。受賞は共謀罪立法の動きを特報した東京新聞。共謀と警察が判断すれば権力が発動されるというトンデモナイ法案。賛成の方、いますか。

○先号に大きなミス(脱文)がありました。訂正いたしましたのでご了承下さい。(清水)

### 会計報告 2006年4月1日～2006年7月25日

#### 一般会計

収 入 (円)		支 出 (円)	
前期繰越	768,188	会報発行費	37,339
会費	188,000	コピー代	20,048
資料販売	8,400	情報公開請求	3,920
寄付金	44,000	会場費	5,000
利息	70	訴訟経費	0
		旅費交通費	0
		事務用品費	50,628
		通信費	10,500
		備品消耗品費	0
		図書費	0
		全国会費	10,000
		講師料	0
		HP管理費	5,000
		雑費	1,920
収入合計	1,008,658	支出合計	144,355
		残高	864,303
訴訟積立金			2,000,000

\* 関東市さん、清水政孝さん、久保文子さん、カンパをどうも有難うございました。

## 今後の予定

月例会議・学習会 いずれもどなたでも  
ご参加いただけます。

8月 1日 (火)	会報第54号印刷・発送	13:30	中原区役所
8月15日 (火)	第4回拡大幹事会	18:30	中原市民館和室
8月22日 (火)	市民集会打ち合わせ会	18:30	てくのかわさき
9月16日 (土)	～17日 (日) 全国大会 (福岡)		
9月19日 (火)	第5回拡大幹事会	18:30	てくのかわさき
9月25日 (月)	会報第55号原稿〆切日		
10月 2日 (月)	会報第55号印刷・発送	13:30	中原区役所予定
10月11日 (水)	KCT公判	13:15	横浜地裁502号法廷
10月17日 (火)	第6回拡大幹事会	18:30	中原市民館和室予定
10月21日 (土)	市民集会	13:30	中小企業・婦人会館

第4回拡大幹事会は  
中原市民館で開催します  
皆さん、ご参加下さい

発行 **かわさき市民オンブズマン**

所在地 郵便番号210-8544

川崎市川崎区砂子1丁目10番地2

ソシオ砂子ビル802 川崎合同法律事務所内

電話 044-211-0121 FAX 044-211-0123

振替 00270-3-85629

<http://www.kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp/>

E-mail: [esihara28@kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp](mailto:esihara28@kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp)

会報第54号 編集スタッフ 清水芳治・佐々木玲吉 2006.8. 1

## 『かわさき市民オンブズマン会報第 53 号』

「憲法記念日によせて」(佐々木玲吉)

### 12 ページの訂正

下記の文章の 2 行目から 6 行目までの脱文がありました。引用した記事の発行所など関係各位にご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫びし、訂正させていただきます

#### 神奈川 先人の遺産を継承したい

「現在、権力を制限し、人権を守るという憲法の役割をねじ曲げ、国民に新たな義務を課そうとする改憲論が独り歩きし始めている。人類の多年にわたる自由獲得の成果である日本国憲法の意義を学び直し先人の遺産を継承したい。」

#### 東京 平和を生きる責任

「前文や九条の改正は戦争ができる国の復活を意味します。勝利を目指せ